

令和6年度第3回学校運営協議会 提言・意見交換 3/5（水）14:00～15:30

於 地歴公民科教室

<今後の予定・検討課題>

上沼校長

探究活動について、黍生山整備活動とふれあい祭りなどは来年度も継続していく。個人単位の探究は新たにテーマを設定し、2学期中間考査を実施しない分の時間を探究日（2日間）にあてて深みのある学習にしていく。

足助高校が中学生・保護者に選ばれる学校になるために何が必要なのか。足助高校の足りないものを教えてほしい。

愛知県観光局局长：武田顧問

観光科の設置による特色ある学校のPRに協力していきたい。また、その学習活動の成果を紹介することができれば、学校の魅力も上がる。観光学習の成功例として、サポートしていく。

足助交流館長：宇和佐顧問

ボランティア活動に感謝している。挨拶ができて、指導が行き届いている。保護者の立場からすると、個々に子どもに目を向け、良い点を伸ばしてくれるような教育をしてほしい。

三州足助公社社長：岡村委員

学力を伸ばし特色ある学校となれば、地域からも応援される学校となる。

足助支所長：花木委員

犬山総合高校のように、地域の特色を生かし、時代に選ばれる学校を意識すると魅力は上がる。足助高校の特色は「観光科」であると思う。

足助まちづくり協議会代表：三宅委員

地域から愛され、保護者や子どもたちの先入観を取り除くためには、基礎学力の定着と出口（進路）の実績を残していく必要がある。

愛知県観光局課長補佐：渡邊アドバイザー

特色ある観光科を目指してほしい。新聞等のメディアを通じてPRに協力したい。

おいでんさんそんセンター：戸田委員

他校と同じ土俵で戦う必要はない。観光科の設置を機会に、保護者や地域の意識の変化に期待したい。学校のコミュニティの良さをPRしていけるとよい。

足助高校PTA前会長：関原委員

受験生の学力でない学校の選択肢があってよい。特に普通科について、個々の受験生が魅力を感じるような情報発信がもっとできるとよい。

豊田市立稲武中学校長：山田委員

卒業生は生き生きと高校での活動報告を中学へ話しにきてくれる。今後も地域から愛され感謝されるような活動をしていくとよい。

豊田市立旭中学校長：後藤委員

習熟度別授業についてはやや否定的で、学びの公平性を担保したほうがよいでは。学力以外での学びを充実することで、他校との差別化・魅力化ができる。次年度の探究活動のテーマの中に、旭中学校の卒業生の意見があることに喜びを感じた。

豊田市立足助中学校長：山田委員

少人数教育による学力の保証や観光科の魅力をもっと発信していく必要がある。子ども・保護者へ観光科で何を学んで、何ができるようになるか、わかりやすく説明してほしい。

足助高校同窓会長：鈴木会長

小・中学校と比べて、コミュニティスクールとしての役割がまだ形式化している。今以上に地域に根付いた、地域と一体化した学校にしていく必要がある。

足助高校同窓副会長：田口副会長

脚光を浴びる観光科だけでなく、併設の普通科とのバランスをとっていく必要がある。

豊田市議会議員：鈴木顧問

近年の少子化で、かつてのような志望者がみられなくなり十数年経過している。豊田東高校が総合学科を取り入れて、いまだに評判が高いことを参考にしてみてもどうか。